

週刊センターニュース

No.206



第206号(2008年5月12日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第182回共同学習会のご案内

日時: 5月15日(木) 16:30~18:00

会場: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階大会議室

発表者: 森 祥寛 (FD・ICT教育推進室)

テーマ: ICTを活用したアクティブラーニングについて

~東京大学現代GP国際シンポジウム『ICTを活用したアクティブラーニング』への参加報告~
概要: 2008年3月17日に東京大学駒場キャンパスにて開催された東京大学現代GP国際シンポジウム『ICTを活用したアクティブラーニング』は、東京大学で平成19年度現代GPに採択された「ICTを活用した新たな教養教育の実現-アクティブラーニングの深化による国際標準の授業モデルの構築-」の報告と成果発表、そしてアクティブラーニングの先進校の取組を紹介するものであった。なによりアクティブラーニングについて、実際の事例を交えての紹介は、学生の学びの在り方の一例を示すと共に、確かに国際標準の授業モデルとなり得る学習方法であろうことが理解できた。同時に(これは講演者が話していたことだが)それが有効に機能するためには、背景となる文化が必要であるという問題点を抱えていた。

本学習会では、シンポジウムにて紹介された内容について簡単に報告、そこでアクティブラーニングについて紹介し、その学習方法について検討したい。特に、この学習方法に関する日本の大学教育への導入可能性、及び日本の学生の特性に合わせた形での学習方法改善について等広く議論をしたい。なお、このアクティブラーニングの手法は、アメリカにおいてはFDワークショップ等に浸透しており、参加教員は否応なく、その学習者として主体的に取り組む事が求められているとのことである。この点についても議論したい。

アカンサスFDの紹介と活用法

今年からのFD義務化に伴い、当センターではアカンサスポータル内に、FDカレンダー『アカンサスFD』を作成・掲載しております。教育改革に向けた学内・学外における様々な取り組み内容が紹介されるセミナー、シンポジウムに関する情報提供を通じ、相互研修・研究のための有効な手がかりとなることを目指しております。

利用方法は、ログインの後、画面右下の【その他情報】の欄に行き、【大学からの連絡】-【FD/SD支援】-【アカンサスFD】をクリックします。そして、開いた画面で、右側の【解説】へ行き、それぞれクリックすると、カレンダーが開きます。現在、(1)「FDカレンダー 学内開催分」、(2)「FDカレンダー 学外開催分」そして(3)「FDカレンダー 当センター教員担当」の3種類のカレンダーを掲載しております。

一つ目の「FDカレンダー 学内開催分」は、本学あるいは学内内部局主催のセミナー・研究会(当センター主催の共同学習会を含む)を掲載しており、項目として 開催時間、セミナー・研究会名、テーマ、会場、講演・報告者 が並んでいます。「FDカレンダー 学外開催分」では、他大学・研究機関・大学教育センターが主催するセミナー・シンポジウムを掲載し、開催時間、セミナー・研究会名、テーマ、主催者、会場、本センタースタッフが司会・報告担当がある場合その名前 の順で記載されています。「FDカレンダー 当センター教員担当」においては、学内・学外開催に関わらず、本センタースタッフが報告ないし司会を担当するものを掲載し、開催時間、セミナー・研究会名、テーマ、会場、講演・報告者 「FDカレンダー」と同様の項目が並んでいます。

また、さらにプログラム日程など詳細な内容を知りたい場合は、該当イベントのセルをクリックす

ると、関連するWEB又はPDFファイルが開き、参照することができます。

大学院GPと大学院FD

平成17年9月に出された中央教育審議会答申「新時代の大学院教育 国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて」を受けた大学院設置基準の改正により、平成19年4月より大学院教育を担当する教員の教育・研究指導能力の向上のための組織的研修・研究(FD)が義務付けられた。一方、上記の中教審答申では、従来の研究室を中心した教育・研究体制から、組織的かつ体系的なコースワークによって幅広い学識を養うとともに、自立して問題を発見し課題を設定できる能力を養う研究と一体となった教育への転換の必要性を述べている。大学院FDにおいては、このような組織的な教育プログラムの開発が一つの重要な課題といえるであろう。

上記中教審答申に前後して平成17、18年度には「魅力ある大学院教育イニシアティブ」、また平成19年度より「大学院教育改革支援プログラム」が始まり大学院教育改革の優れた事例(GP)が採択されている。「大学院教育改革支援プログラム」の趣旨として、「体系的な教育プログラムを編成・実践し、(中略)大学院教育の実質化(教育の組織的展開の強化)を推進。」とあり、中教審答申に沿って、自立や問題発見能力の養成を意図した実践が採択された大学で行われている。

本学人間社会環境研究科の「プロジェクト研究を通じた自立的研究者養成」(平成19~21年度)も大学院教育支援プログラムに採択されている。HPに掲載されているプログラム概要を紹介すると「学生は、このプログラムを通して、課題発見・企画立案・研究遂行・他者評価等の各種能力を向上させることが求められます。(中略)このプログラムではそのために、学生(博士前期・後期課程)に研究計画を申請させ、それに対し競争的に資金を配分します。プロジェクト研究運営委員会が申請の審査や成果の評価を行うとともに、若手研究者をプロジェクト研究アドバイザーとして雇用し、調査や報告書作成などの学生支援に当たさせます。また、申請審査および成果評価に学生を参加させるピア・レフェリー制を導入し、学生の他者評価やプレゼンテーション能力の向上を図ります。」
本学には10年間継続して実施されている学長研究奨励制度もあり、学士課程から大学院にまたがり学生の自立と問題発見の視点を養う全国に発信しうる優れた取組である。

平成18年度の「魅力ある大学院教育イニシアティブ」に採択されたお茶の水女子大学の「ユニバーサルマインドをもつ女性人材の育成」についても概要を紹介したい。この事業を通して、大学院教育システムの抜本的改革について試行的に検討を進めている。すなわち、1)学部3年終了時にアカデミックトラックとキャリアトラックの選択、アカデミックトラックにおいては、2)学生は学部4年次に研究計画を提出、3)6年間(4年、M1、M2、D1、D2、D3)の教育カリキュラムを学生に提示、4)実質3年制の博士前期課程 などである。学生による研究プロポーザル制はアメリカの大学院では普通に行われているが、日本の大学では研究室の人的体制等から難しいと思われる。したがって、本学人間社会環境研究科の上の事例のような工夫など、学生の自立を促す教育プログラムのアイデアが必要と思われる、大学院FDの一つの課題であろう。

(文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭)

第26回日本学生相談学会公開講演会のご案内

標記の学会講演会が、5月17日(土)に、市内、文教会館(金沢市尾山町10-5)にて開催されます。なお、二つの公開講演の間に、中村学長が開催校学長挨拶をされます。ご関心のある方は是非ご参加下さい。
日時:5月17日(土)午前9時30分 ~

学会賞講演(公開):「カウンセリングのプロセスと禅の牧牛図」 講師:嘉部和夫(日本大学)
午前10時40分 ~

特別講演(公開):「加賀の工芸『加賀象嵌』」

講師:中川 衛(金沢美術工芸大学、重要無形文化財「彫金」の保持者(人間国宝))